

さくましゅうざんしよごたんのぼり  
「佐久間象山書五反幟」

- 指 定 千曲市指定有形文化財（歴史資料） 昭和 62 年 1 月 27 日
- 所 在 地 千曲市大字桜堂 268-1 千曲市文化財センター
- 所 有 者 <sup>さんぼんぎじんじや</sup>三本木神社（千曲市教育委員会へ寄託）
- 概 要 <sup>さくましゅうざん</sup>佐久間象山書幟 2 点  
寸法 縦 9.4m、幅 1.75m  
五反幟とも呼び、五反の木綿製布を縫い合わせた大きな幟
- 時 代 江戸時代、文久 2 年（1862）と推定
- 公 開 社宝のため非公開

佐久間象山は信州が生んだ逸材で、兵学、漢学、洋学に秀で松代藩士として、才能を發揮し幕末期に活躍しました。松代藩士<sup>さなだゆきつら</sup>真田幸貫が幕府の老中となり、海防係となったので、象山を顧問として海外事情を研究させるなど活躍の場を与えました。この幟は、日本歴史に名を連ねた逸材である佐久間象山の書です。

「齋盛隆徳洽<sup>横艾淹 茂之相</sup>」 壬戌（1862）文久 2 年春 ヨモギも茂り、豊年の様相  
昨年も豊年で御供えも出来、今年も何とぞ御願ひ申す

「鼓楽報年豊<sup>象山平 啓書</sup>」 今年も豊年有難く御礼申し上奉る

筆を振るうに至った経過については、小野派一刀流免許皆伝を得た剣士であった上山田<sup>たじまいちろう</sup>三本木の田島一郎（天保 11 年生）が、帰郷して剣を教えていた際に、象山とも交わりがあり村人と共に象山に<sup>こんせい</sup>懇請して書いてもらったものであると伝えられています。

